

このたび、『証』の診方・治し方』の第2巻が発刊される運びとなりました。

本書は、『証』の診方・治し方』第1巻（2012年12月発行）と同じく、季刊『中医臨床』の「弁証論治トレーニング」のコーナーに長い間掲載されてきた多くの症例から、新たに30の症例を厳選しました。各症例に対して、症状分析にもとづき病因病機を推理しながら弁証する方法、治療方法と経過、そして迷いやすい点についてのアドバイスをまとめ、さらに弁証ポイントと病因病機図を加筆しました。

中医治療の素晴らしさは、弁証論治により疾患を根本から治療できることです。病の原因を取り除き、目の前の患者が一刻も早く苦痛から解放されることは、臨床家の一番の願いでしょう。しかし、授業や本から学び得た知識だけでは、良い臨床家になるまでの道のりは長く、その距離を縮めるためには常に実践的な訓練をしながら臨床経験を積むしかありません。

その意味でも、本書と第1巻に紹介された症例は、皆さまに実践的な訓練の場を提供しているといえるでしょう。本書に書かれた弁証論治の手順・経過などを見ながら勉強してもよいし、また症例をもとに自分なりの分析・弁証・治療（中薬・方剤・配穴・手技など）を考えてから、その解説と比較してもよいと思います。たくさんの症例トレーニングを繰り返すことによって、皆さまの中医学の臨床力は着実に進歩することでしょう。

おかげさまで、2018年12月に本書の元となる『中医臨床』の「弁証論治トレーニング」は第100回を迎えました。これも皆さまのご愛読・ご支持の賜物と深く感謝致しております。振り返ってみれば、私の力不足で、また拙いところもありましたが、皆さまに何らかのヒントを示すことができたのであれば幸いです。

最後に、本書の発刊にあたりまして、東洋学術出版社社長の井ノ上匠様のご助言と、編集者の森由紀様に多大なご尽力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

2019年春 高橋楊子